

最終成果報告会

— 人工細胞リアクタが拓くイノベーション —

2019年3月5日

東京大学小柴ホール（本郷キャンパス理学部1号館中央棟）

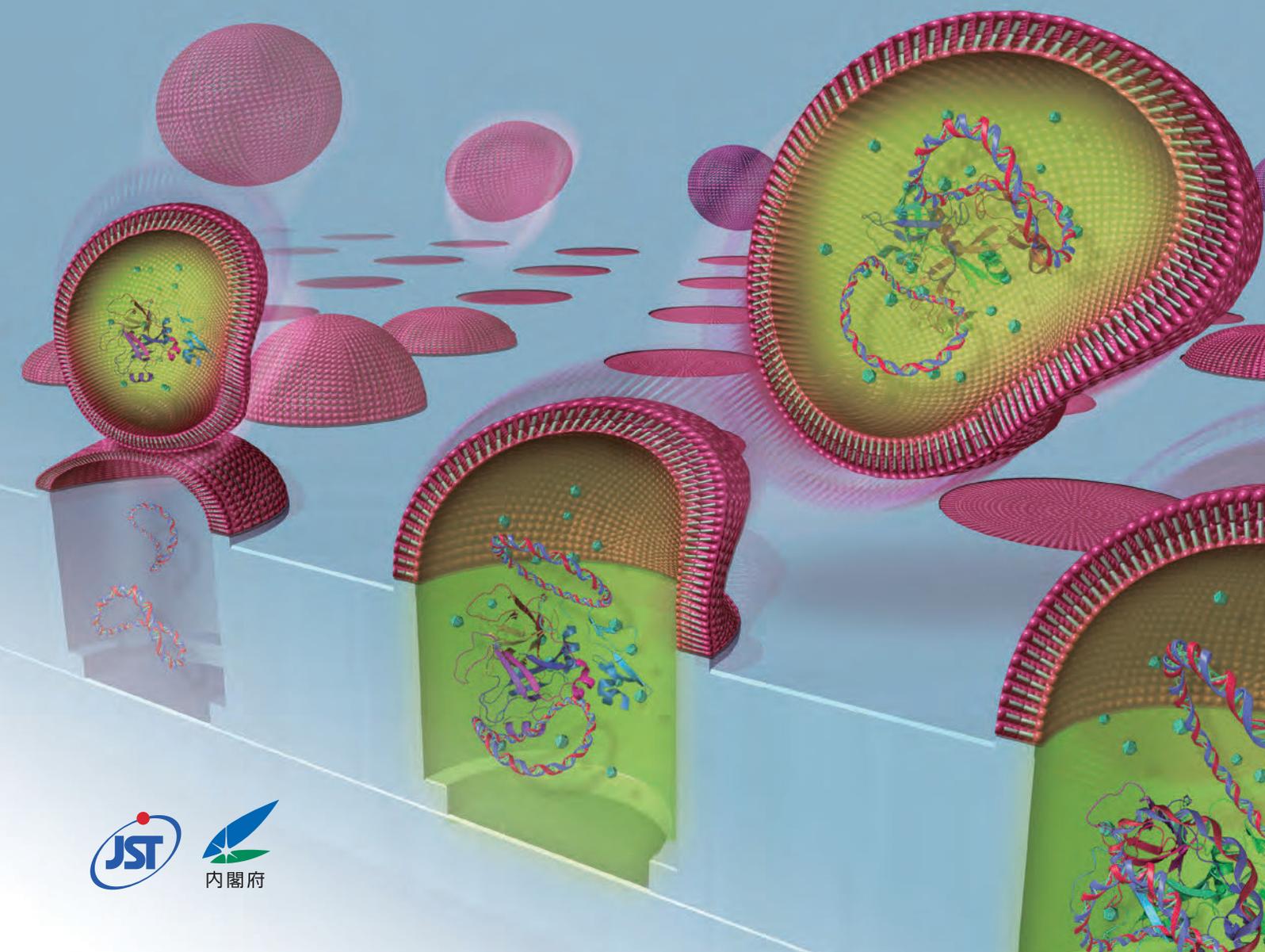
時間：10:00～18:00（9:20 開場）

参加費：無料（意見交換会は参加費5,000円となります）

使用言語：日本語

参加申込：事前登録（申込先 URL: <https://www.jst.go.jp/impact/sympo/nj0305/>）

問い合わせ先：impact-nj@jst.go.jp



最終成果報告会 —人工細胞リアクタが拓くイノベーション—

時間	プログラム
10:00-10:10	開会挨拶 野地 博行 (ImPACT プログラム・マネージャー)
10:10-10:35	デジタル超高感度アッセイの応用 吉村 徹 (アボット ジャパン株式会社 診断薬・機器事業部 総合研究所 所長) 人工細胞リアクタを用いた全自動デジタルイムノアッセイの開発
10:35-11:00	牧野 洋一 (凸版印刷株式会社 総合研究所 上級リーダー 研究員) デジタル遺伝子診断
11:00-11:25	超並列型リアクタによる高機能酵素の創出 野地 博行 (東京大学工学系研究科 教授) 人工細胞リアクタを用いたスーパー酵素の開発
11:25-11:50	村田 武士 (千葉大学理学研究科 教授) 理論計算と進化分子工学を融合したG蛋白質共役型受容体の革新的耐熱化法の開発
11:50-12:50	休憩
12:50-13:50	ポスター発表
13:50-14:40	【招待講演】 上田 卓也 (東京大学 新領域創成科学研究科 教授) PURE systemと人工細胞
14:40-15:05	バイオマス酵素の改変と実用化評価 五十嵐 圭日子 (東京大学 大学院農学生命科学研究科 准教授) 松永 尚之 (株式会社 Biomaterial in Tokyo 主任研究員) セルロース系バイオマス利用のための高活性糖化酵素の作出
15:05-15:30	古賀 信康 (自然科学研究機構 生命創成探究センター 准教授) タンパク質構造の合理的耐熱化法の開発
15:30-15:55	スクリーニングのためのプローブ開発 浦野 泰照 (東京大学 大学院薬学系研究科・医学系研究科 教授) 豊かで安全な社会の実現に資する蛍光プローブの開発
15:55-16:10	休憩
16:10-16:35	人工細胞リアクタの設計 末次 正幸 (立教大学 理学部生命理学科 准教授) 染色体複製サイクルを再構成した高性能DNA増幅技術とその利用
16:35-17:00	竹内 昌治 (東京大学 生産技術研究所 教授) 人工細胞膜を用いた遺伝子導入法
17:00-17:25	鈴木 宏明 (中央大学 理工学部精密機械工学科 教授) 長鎖DNAのトランスフェクション
17:25-17:50	基盤技術設計と高感度ウイルス診断法開発 田端 和仁 (東京大学 工学系研究科 講師) デジタルインフルエンザ診断装置の開発
17:50-18:00	閉会挨拶 野地 博行 (ImPACT プログラム・マネージャー)
18:30-20:30	意見交換会 (東京大学向ヶ岡ファカルティハウス レストラン アブルポア)